

「使用上の注意」改訂のお知らせ

2023年7・8月



持続性 Ca 拮抗薬 / HMG-CoA 還元酵素阻害剤

劇薬
処方箋医薬品

アマレット® 配合錠1番「ケミファ」
アマレット® 配合錠2番「ケミファ」
アマレット® 配合錠3番「ケミファ」
アマレット® 配合錠4番「ケミファ」
アムロジピンベシル酸塩・アトルバスタチンカルシウム水和物配合剤

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は弊社製品につきまして格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、このたび令和5年7月20日付 厚生労働省医薬・生活衛生局医薬安全対策課長通知及び自主改訂に基づき、標記製品の「使用上の注意」の記載内容を下記のとおり改訂致しましたので、ご案内申し上げます。

敬具

記

<改訂内容（2023年7月改訂）>（該当部分のみ抜粋）

1. 「慎重投与」の項の記載を一部改訂し、以下のように改めました。

下線_____部：追記箇所（薬生安通知）

改訂後	改訂前
1. 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること） 省略（現行通り） アトルバスタチン (1)～(6)省略（現行通り） (7) <u>重症筋無力症又はその既往歴のある患者</u> <u>「重症筋無力症（眼筋型、全身型）が悪化又は再発することがある。」</u> （「4. 副作用（1）重大な副作用」の項参照）	1. 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること） 省略 アトルバスタチン (1)～(6)省略

2. 「相互作用」の「併用注意」の項の記載を一部改訂し、以下のように改めました。

下線_____部：追記箇所（自主改訂）、下線_____部：削除箇所

改訂後	改訂前
3. 相互作用 省略（現行通り） (1) <u>併用禁忌（併用しないこと）</u> 省略（現行通り）	3. 相互作用 省略 (1) 併用禁忌（併用しないこと） 省略

改訂後			改訂前		
(2) 併用注意（併用に注意すること） アムロジピン			(2) 併用注意（併用に注意すること） アムロジピン		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
省略（現行通り）			省略		
CYP3A4阻害剤 エリスロマイシン ジルチアゼム リトナビル ニルマトレル ビル・リトナビル イトラコナゾール等	省略（現行通り）	省略（現行通り）	CYP3A4阻害剤 エリスロマイシン ジルチアゼム リトナビル イトラコナゾール等	省略	省略
省略（現行通り）			省略		
アトルバスタチン			アトルバスタチン		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
省略（現行通り）			省略		
HIVプロテアーゼ阻害剤 ロピナビル・リトナビル等	ロピナビル・リトナビルとの併用によりアトルバスタチンのAUCが5.88倍に上昇するとの報告がある。	省略（現行通り）	HIVプロテアーゼ阻害剤 ロピナビル・リトナビル メシル酸ネルフィナビル等	ロピナビル・リトナビルとの併用によりアトルバスタチンのAUCが5.88倍、メシル酸ネルフィナビルとの併用によりアトルバスタチンのAUCが約1.7倍に上昇するとの報告がある。	省略
ニルマトレルビル・リトナビル	併用によりアトルバスタチンの血中濃度が上昇するおそれがある。アトルバスタチンの副作用が発現しやすくなるおそれがあるため、十分な観察を行いながら慎重に投与し、必要に応じて減量や休薬等の適切な措置を講ずること。	機序：アトルバスタチンの代謝を競合的に阻害するためと考えられている。	グラゾプレビル	省略	省略
エンシトレビル フマル酸	併用によりアトルバスタチンの血中濃度が上昇し、副作用が発現しやすくなるおそれがある。	機序：エンシトレビル フマル酸のCYP3A に対する阻害作用が考えられている。	省略		
グラゾプレビル	省略（現行通り）	省略（現行通り）	省略		
省略（現行通り）			省略		

3. 「副作用」の「重大な副作用」の項の記載を一部改訂し、以下のように改めました。

下線 _____ 部：追記箇所（薬生安通知）

改訂後	改訂前
4. 副作用 省略（現行通り） (1) 重大な副作用（頻度不明） アトルバスタチン 1)～8)省略（現行通り） 9) <u>重症筋無力症：重症筋無力症（眼筋型、全身型）が発症又は悪化することがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。</u> (2) その他の副作用 省略（現行通り）	4. 副作用 省略 (1) 重大な副作用（頻度不明） アトルバスタチン 1)～8)省略 (2) その他の副作用 省略

<改訂理由>

1. 令和5年7月20日付 厚生労働省医薬・生活衛生局医薬安全対策課長通知による改訂

HMG-CoA還元酵素阻害剤及びその配合剤に対し、欧州添付文書に重症筋無力症、眼筋無力症を追記するPRAC勧告がなされ、専門委員の意見も踏まえた調査の結果、下記の点から、重症筋無力症に関する注意喚起を追加することが適切と判断されました。

- ・国内副作用症例において、HMG-CoA還元酵素阻害剤と重症筋無力症の因果関係が否定できない症例 (Medicine. 2015;94:e416.) が認められていること。
- ・公表文献 (Eur J Neurol. 2008;15:e92-93、J Med Assoc Thai. 2011;94:256-258) において、HMG-CoA還元酵素阻害剤の再投与で重症筋無力症の症状が再発した症例、HMG-CoA還元酵素阻害剤の中止で重症筋無力症の症状が消失した症例等、HMG-CoA還元酵素阻害剤と重症筋無力症との因果関係が否定できない症例が報告されていること。
- ・公表文献において、WHO個別症例安全性報告グローバルデータベース (VigiBase) ^{※1}において不均衡分析を行い、HMG-CoA還元酵素阻害剤の重症筋無力症に関する副作用報告数がデータベース全体から予測される値より統計学的に有意に高かった^{※2}との報告 (Muscle & Nerve. 2019;60:382-386) があること。
また、機構で実施したVigiBaseの2023年5月23日時点のデータセットを用いた不均衡分析においても、同様の結果が示されたこと。
- ・国内外のガイドライン^{※3}で、重症筋無力症において注意を要する薬剤としてHMG-CoA還元酵素阻害剤が記載されていること。

※1 情報源は様々であり、疑われた副作用が医薬品と関連する可能性はすべての症例で同一ということではない。

※2 WHO又はUMCの見解ではない。

※3 重症筋無力症/ランバート・イートン筋無力症候群の診療ガイドライン2022 (日本神経学会監修)、International Consensus Guidance for Management of Myasthenia Gravis 2020 (Neurology. 2021;96:114-122)

2. 自主改訂による改訂

相互作用相手薬との記載の整合を図るため、「相互作用」の「併用注意」の項に薬剤名等を追記しました。また、相互作用相手薬の販売中止に伴い、「相互作用」の「併用注意」の項の薬剤名等を削除しました。

前頁の改訂内容を踏まえ、ご使用くださいますようお願い申し上げます。

今後とも弊社製品のご使用にあたって副作用・感染症等をご経験の際には、弊社MRまでご連絡くださいますようお願い申し上げます。

以上

- 今回の改訂内容につきましては、医薬品安全対策情報 (DSU) No. 319 (2023年8月) に掲載される予定です。
- 最新の電子化された添付文書は弊社ホームページ「医療関係者向けサイト」 (<https://www.nc-medical.com/>) 及びPMDAホームページ「医薬品に関する情報」 (<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html>) に掲載致します。また、添付文書閲覧アプリ「添文ナビ」で下記 GS1 コードを読み取ることでご覧いただくこともできます。

